ホッケー部門競技要項（ファーストディビジョン）

１．参加資格

 日本学生氷上競技連盟加盟校のうち、地区ごとに定められた枠数により出場権を得た各地区の代表１４校と前大会ベスト１６進出の１６校、開催地域枠、全大会セカンドディビジョン優勝校の所属する地域計３２校。

 北海道２、東北３（地域枠２+前大会セカンドディビジョン優勝校所属枠）、北信越１、関東２、中部１、関西３、中四国１、九州２、及び昨年度ベスト１６進出校(関東地区１３、関西地区２)、開催地域枠１、計３２校。

２．出場制限

(１)ベンチ入りする選手は、ゴールキーパー最小１名、最大２名。プレイヤー最小１０名、最大２０名とし、ゴールキーパー１名を含み総勢１１名未満のチームは出場資格を持たない。

(２)試合に際して、登録された責任者(チームを管理するスタッフ：監督、コーチ等)が不在の場合は、試合放棄と見なしその試合は没収される。ベンチ入りスタッフは最小１名、最大６名とする。スタッフとは監督・コーチとして(公財)日本アイスホッケー連盟に登録されている者とする。

(３)外国籍学生の出場は１校につき２名以内とする。

(４)学生ドアマンについては、本大会登録選手・マネージャーが２名以内でベンチ入りすることができる。その際には必ずフルフェイスマスクのついたヘルメットを着用しなければならない。

またドアマンもスタッフ含む。

３．競技方法

(１)上記３２校によるトーナメント戦により１位～５位を決定する。

(２)試合は正味２０分×３ピリオドで行なう。インターバルは、１０分とする。

 タイムアウト(３０秒)は全試合、各チーム１回使用できるものとする。

(３)第３ピリオド終了時点において同点の場合、下記の方法で勝敗を決定する。

①１回戦より準々決勝戦においては、国際アイスホッケー連盟スポーツ規定に定められる「ペナルティー・ショット・シュートアウト」(PSS)の方式に従うが、５名ではなく３名による「ペナルティー・ショット・シュートアウト」により勝敗を決定する。この場合３名のノミネートは不要で、リンクサイドは片面だけを使う。なお、３名で決着がつかない場合はタイ・ブレイク方式(サドンデス)で行い、タイ・ブレイクへ入ったら、同じ選手が何回続けてショットしても良い。なお、３名で決着がつかない場合はタイ・ブレイク方式(サドンデス)で行い、タイ・ブレイクへ入ったら、同じ選手が何回続けてショットしても良い。

②準決勝戦、３位決定戦及び決勝戦は、第３ピリオド終了直ちにサイドチェンジは行わず５分間のスケーター３対３によるサドンデス方式の延長戦により勝敗を決定する。延長戦でも決しない場合は、上記①による「ペナルティー・ショット・シュートアウト」(PSS)により勝敗を決定する。

(４)練習時間は、１・２回戦は７分間、準々決勝以降は１０分間。

(５)日本アイスホッケー連盟、主管連盟及び大会事務局の定めるローカルルール以外は、2018年に改定された国際アイスホッケー連盟の定める国際競技規則及び同スポーツ規定による。

４．シード

(１)前大会ベスト１６進出校がシードされる。

(２)ベスト４校は、順位により定められた位置にシードされる。

(３)５位４校のシード位置は、昨年度大会期間中に抽選によって決定済みである。

(４)前大会ベスト１６進出校は、春季代表委員会において、抽選によって決定済みである。

５．得 点

 ベスト８進出校に得点を与える。１位８点、２位７点、３位６点、４位５点、５位(４校)は２．５点ずつとする。

６．表 彰

(１)優勝校には優勝杯を授与し、１～３位に賞状を授与する。

(２)全参加者のうち、１名に最優秀選手【ＭＶＰ】賞を授与する。

(３)ベスト４進出校のうち準々決勝戦からのポイントを計算し、【得点王】賞及び【アシスト王】賞を授与する。

(４)ポジションごと（FW3名、DF２名、GK１名）に優秀選手を選出し、【ベスト６】賞を授与する。

７. そ の 他

 本年度大会において確定した５位４校については、大会期間中に抽選により次年度大会のシード位置を決定する(詳細については、監督主将会議で発表する。

※各地区予選に関してもこの要項に準じて行うものとする。